

# 1 学年立山自然観察実習報告

◇期 日 1回目 令和5年7月23日(日)～24日(月)  
2回目 令和5年7月29日(土)～30日(日)

◇場 所 富山県立山カルデラ砂防博物館、展望立山荘  
美女平、弥陀ヶ原、室堂(富山県中新川郡立山町)

◇参加者 1年探究科学科生徒79名、富山県ナチュラリスト協会の先生方、  
富山県天文学会の先生方、本校教員

私たちは、2日間の実習を通して、立山の壮大な自然をよく“観察”することで、普段気づかないことにも気づき、興味深い結果を得るとい、日常生活ではなかなか経験できないことを経験し、よく学ぶことができた。



7月6日(木)に行われた事前指導で実習に関する説明を受けたあと、実習に向かった。



1日目は、まずカルデラ砂防博物館へと向かった。そこでは、動画や展示品を見て、立山カルデラの歴史を詳しく学んだ。その後、ナチュラリストの先生方の支援を受けて、美女平のブナ林の構造や、植物群落の調査を行い、ブナのコケと積雪量の関係などを考察した。更に標高の高い弥陀ヶ原では、ゲノムサイズが最大と言われているキヌガサソウをはじめ、なかなか見ることができない貴重な植物を観察した。弥陀ヶ原の植物は、美女平と比べて低木層や草本層のものが多く、視界が開けているので、立山カルデラも展望できた。その絶景は言葉が出ないほど壮大であった。私たちはその迫力を生で実感することができた。その日の夜に、天体観測を行った。天文学会の先生方から説明を受けながら、1回目・2回目ともに美しい星空を観察し、いくつかの星座も見つけることができた。星空の中を颯爽と走って行く流れ星も見ることができた。また、星の終わりについて興味深いお話を聞くことができた。



2日目は、室堂で高山植物の調査を行った。周囲は巨大な山々に囲まれ、また深い谷があり、著しい高低差が感じられた。地獄谷には立ち入ることができないものの、見下ろすと鼠色の台地が広がっており、激しい煙が立ち上っていた。とても美しいが、とても生き物の住めないような景色であった。さらに道を進むと、幸運にも雷鳥に出会うことができた。さらに進むと、みくりが池をはじめ、さまざまな池を見ることができた。これらは噴火によってできた池であり、地下にはマグマだまりがあるという。地獄谷もしかし、危険に満ちた美しさが、立山には

あった。そして弥陀ヶ原では、国立公園の中なので特別に許可を得て、池塘、いわゆるガキ田とその周りの植生調査を行った。この辺りは六道に落ちた餓鬼が飢えをしのぐために田植えをしている場所だと言われている。しかし調査をすると、ガキ田の中にあっただのは、実のならない植物であった。まさに伝説にふさわしい場所であった。



実習を通して、標高の違いによって、植生にどれだけ違いが出るのかを実感することができた。また7月25日(火)と8月7日(月)に行われた事後指導では、調査をもとに更に考察を深めることができた。

天候にも恵まれた実習であったが、充実した実習のためにお力添えをいただいた立山のプロフェッショナルであるナチュラルリストや天文学会の先生方、宿泊に際して様々な面でサポートしてくださった展望立山荘の皆様、私たちが集中して実習に取り組めるよう準備をしてくださった本校の先生方に改めて感謝したい。ここで学んだことを生かして、今後の探究活動に取り組んでいきたいと思う。

